

【学校】鎌倉市内の子ども関連施設における読書環境アンケート集計結果2025

第4次鎌倉市子ども読書活動推進計画を推進していくにあたり、子ども関連施設の読書環境を把握するため、令和7年(2025年)5月にアンケートを実施しました。

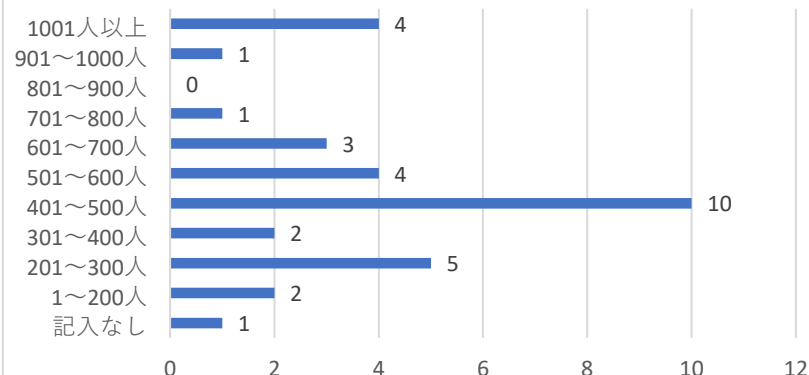
鎌倉市内の小中学校、高校の39校に依頼し33校から回答を得ました。(FAX23件、e-kanagawaでの回答10件)
回答率は84.6%、回答者のうちe-kanagawaでの回答率は30.3%でした。ご協力ありがとうございました。

子どもの読書環境について定点観測し、今後の読書環境整備に役立てます。

過去のアンケート集計結果はこちら



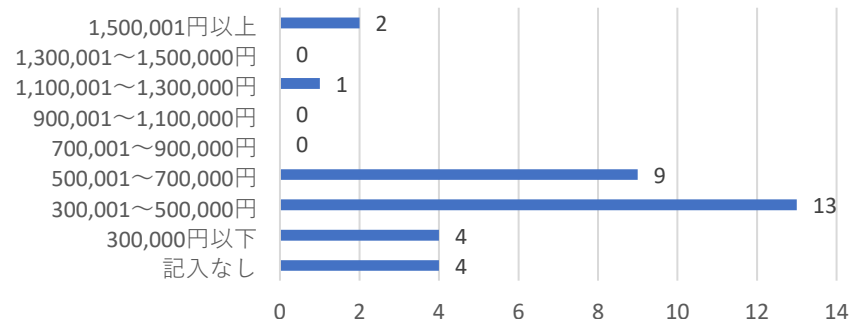
在校生の人数



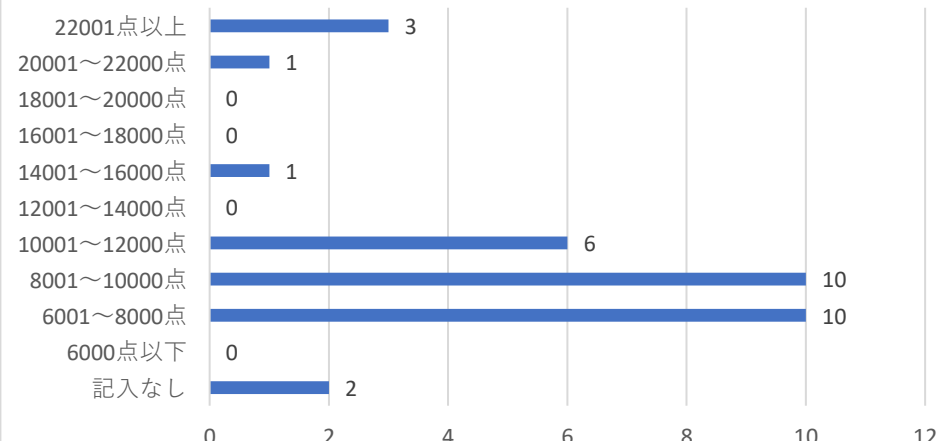
公立小学校16校、公立中学校8校、県立高校3校、国立・私立中学・高校6校からの回答です。

※単位について記載のない数値は学校数を表しています。

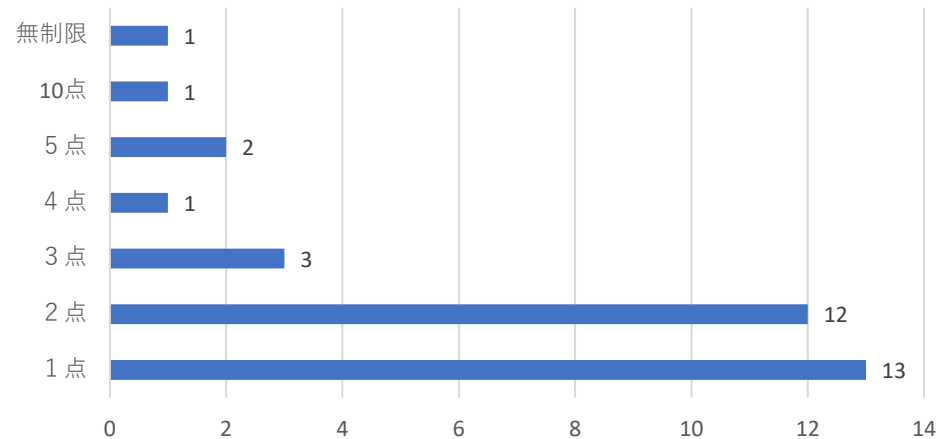
資料費



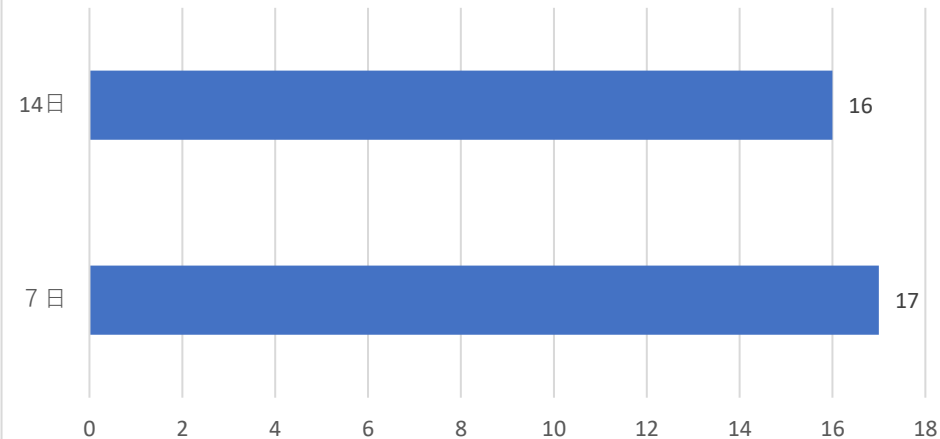
所蔵点数



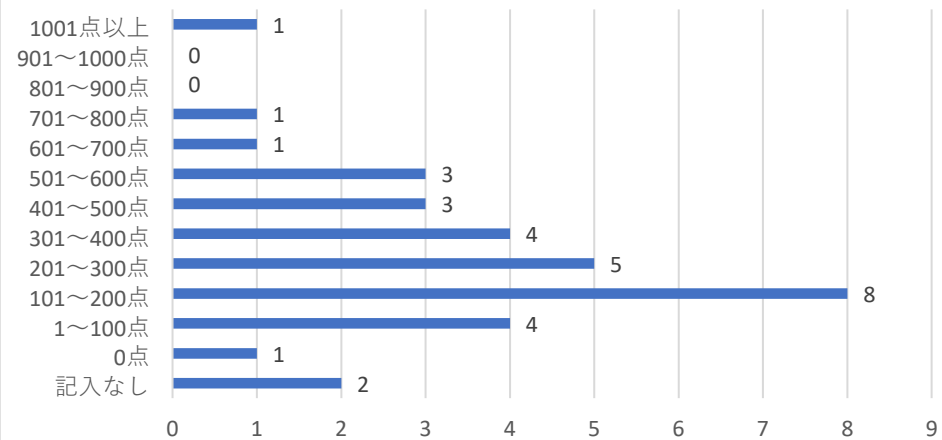
1回に貸出できる点数



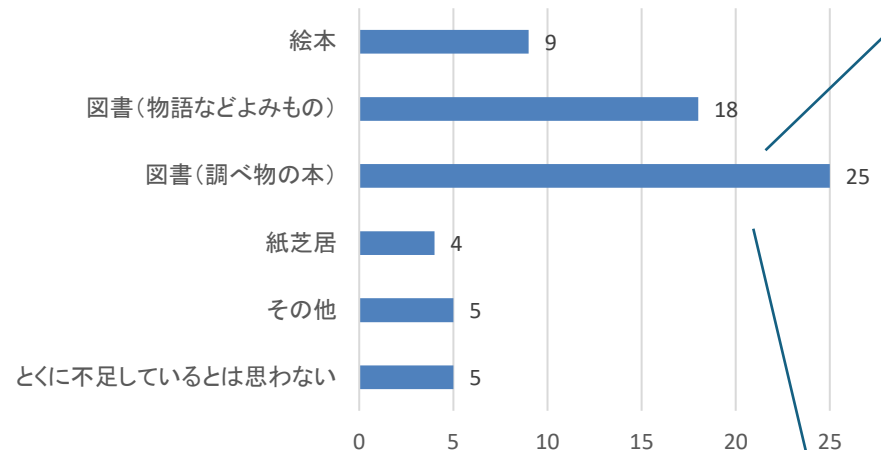
貸出期間



2025年4月の1カ月の貸出点数

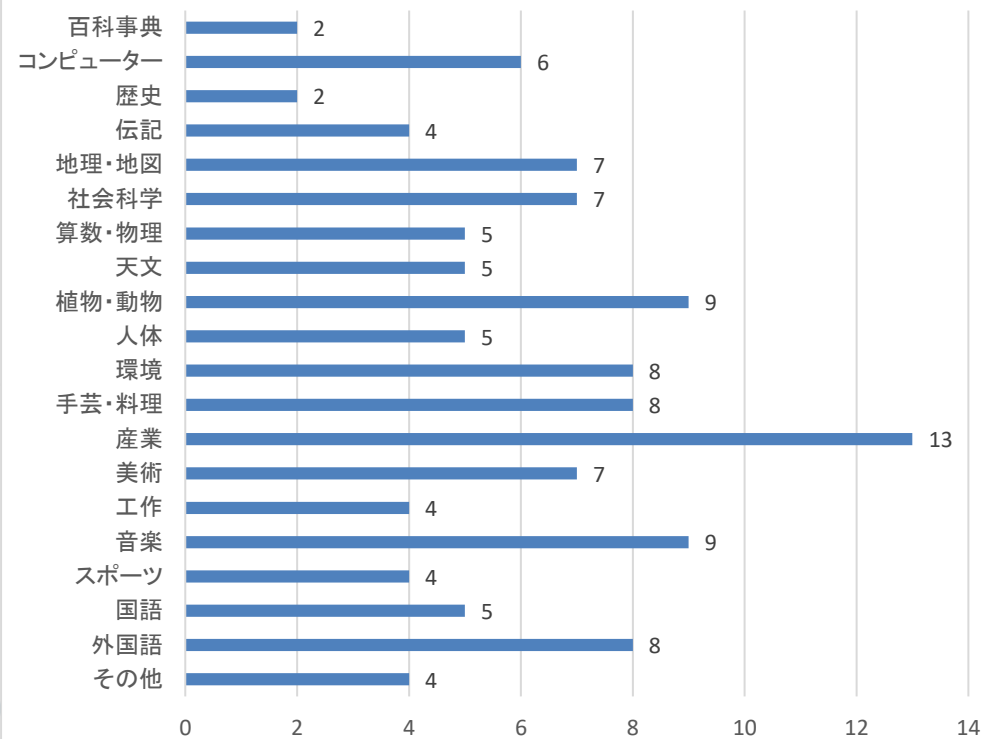


不足している資料



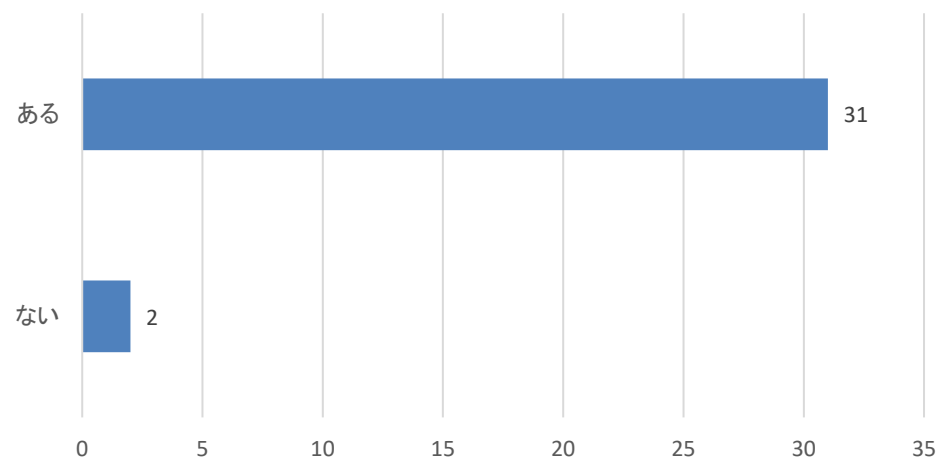
(内訳)

調べ物の足りない分野

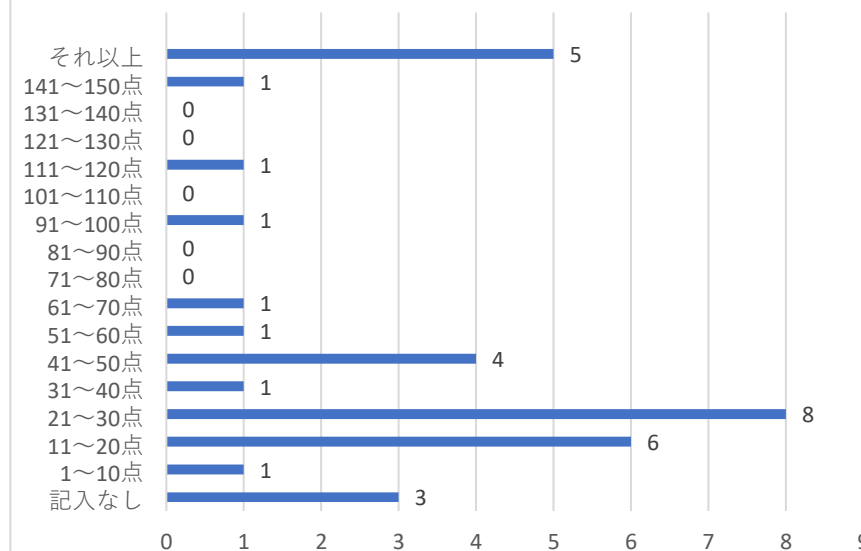
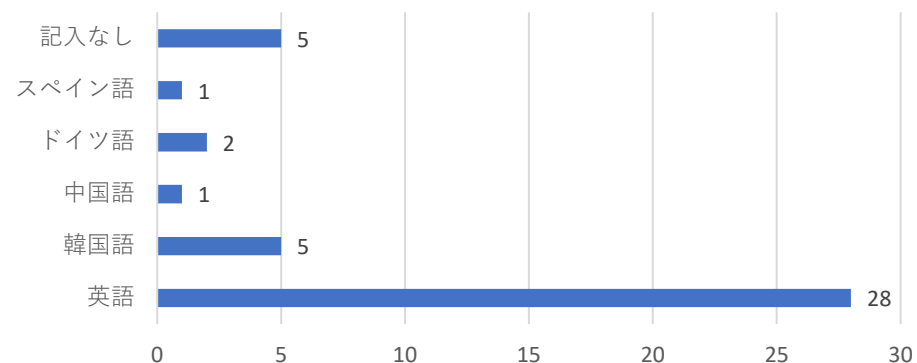


【読書バリアフリーについて】

外国語絵本や図書の所蔵について

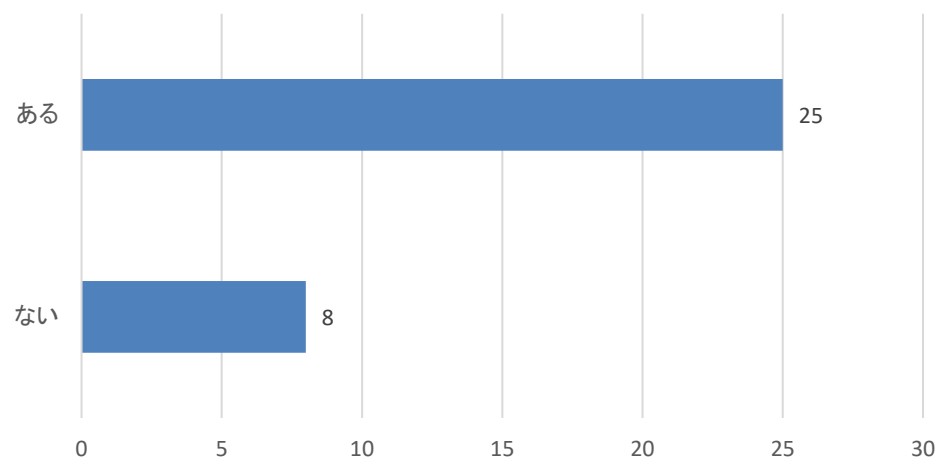


外国語絵本・図書の所蔵点数

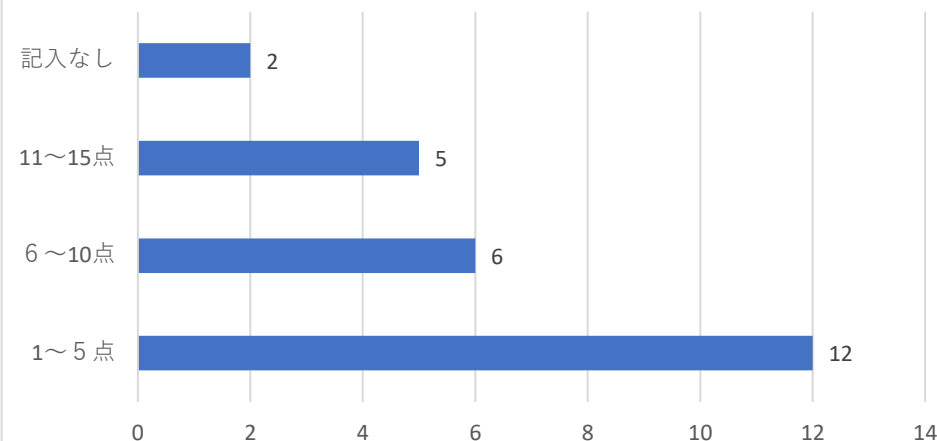
所蔵している外国語絵本・図書の言語
(複数回答可)

回答のあった多くの学校で外国語の絵本・図書を所蔵しています。
所蔵点数が3500点を超える学校もありました。
言語はほとんどが英語のみですが、韓国語・中国語・ドイツ語・スペイン語の絵本・図書を所蔵している学校があり、前年より言語の種類が増えました。

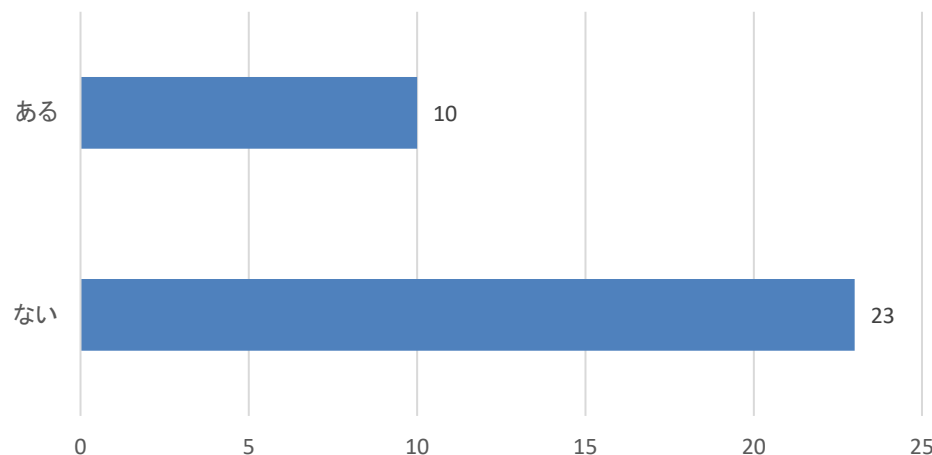
布絵本や点字絵本・図書の所蔵について



点字絵本・図書の所蔵点数



LLブックの所蔵について



※今年度は布絵本を所蔵している学校はありませんでした。

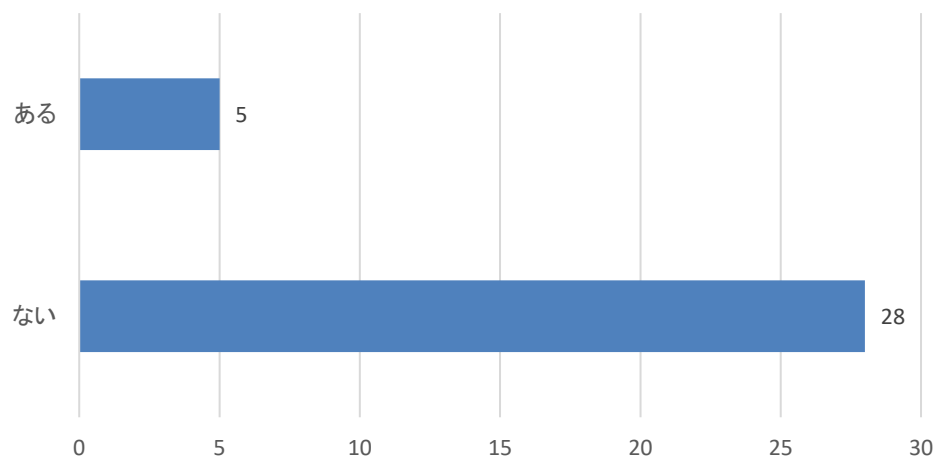
単純な比較はできませんが、昨年度LLブック所蔵校は7校だったので、所蔵が増えています。所蔵点数も30点を超える学校がありました。

点字絵本・図書については、所蔵校はかわりませんが、所蔵点数は増えています。

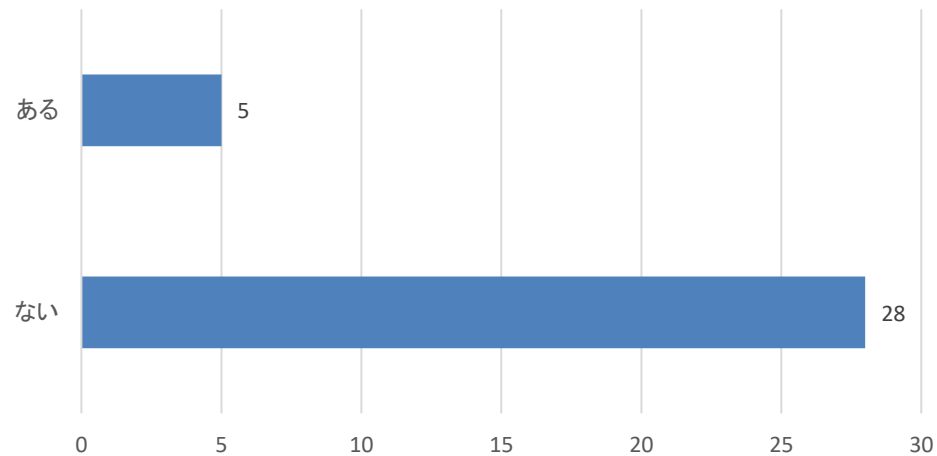
※LLブックを「ある」と回答した学校の所蔵点数は1点(3校)、2点(1校)、4点(2校)につづき、5点、7点、12点、30点(1校ずつ)です。

※「LLブック」とは、スウェーデン語で「やさしく読みやすい本」という意味。ピクトグラム(絵)を使ったり、短い言葉で書かれたりしている本。

大活字本の所蔵について



CDブックや録音図書デジターの所蔵について



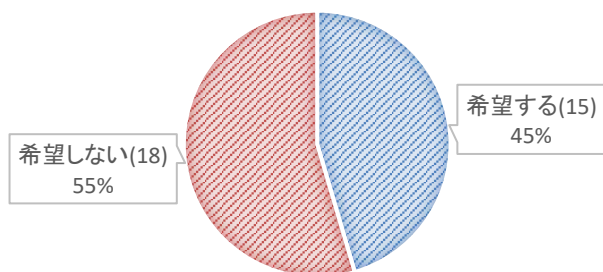
※大活字本を「ある」と回答した学校の所蔵点数は2点(2校)、3点、4点、19点でした。

※CDブックや録音図書デジターを「ある」と回答した学校の所蔵うち、CDブックの所蔵点数は、2点、5点、28点、200点でした。

録音図書デジターの所蔵点数は、1点でした。

リサイクル図書について

■ 希望する(15) ■ 希望しない(18)



単純比較はできませんが、バリアフリー図書を所蔵する学校が増えているようです。

※昨年度のリサイクル図書の譲渡会が好評でしたので、今年度も、深沢図書館で実施予定です。
ご希望の学校へお知らせいたします。

障害のある子や海外にルーツのある子へ、どんな読書をサポートをしているか。

(障害のある子へのサポート)

- ・発達段階に合わせて紙芝居による読み聞かせ・日本語の理解力に合わせて分かりやすい日本語で書かれた本の提供
- ・デージー図書の紹介。今年度より利用予定(電子図書)
- ・ディスレクシアのことを知ってもらうための展示。「バリアフリー図書室の森へようこそ」の冊子とバリアフリー図書の展示。
- ・今年度よりデージー子どもゆめ文庫に申し込み、りんごの棚を作る予定があります。
- ・支援級の児童への読み聞かせの際、それぞれの子どもの特性にあった選書を心がけています。
- ・図書室内に「りんごの棚」を設置
- ・本の紹介、本人と保護者に希望の本を聞いて購入、手に取った本を見て興味を示しそうな本を購入。

(海外にルーツのある子へのサポート)

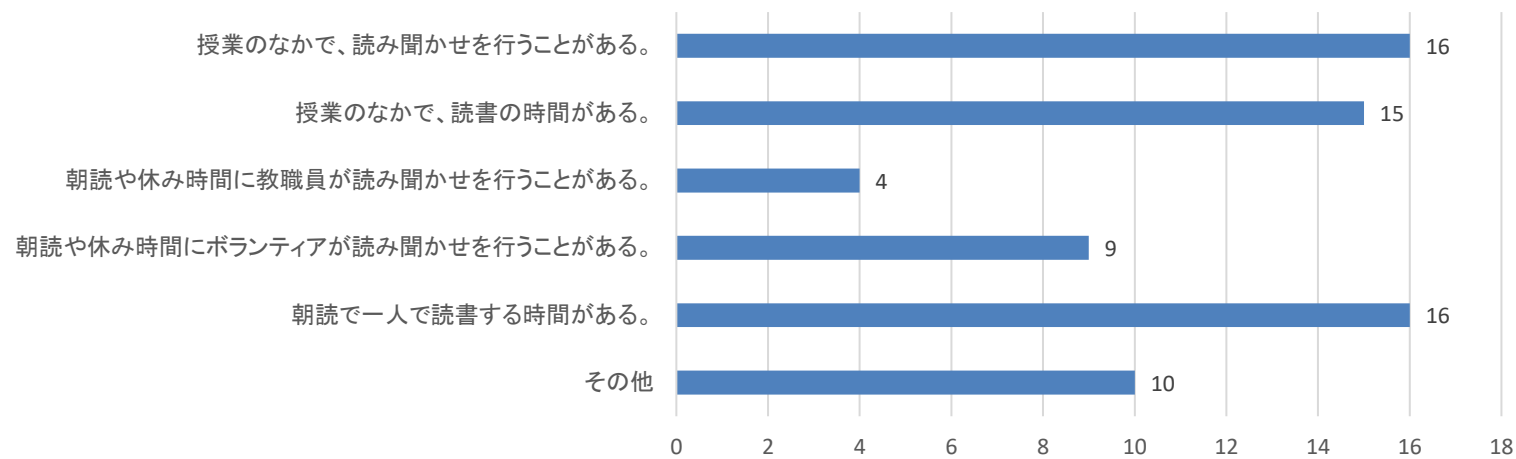
- ・「Asahi Weekly」を購入。
 - ・海外の生徒にと、日本語と英語が書いてある読み物を増やそうと検討中。
- 他は特にないので、読書バリアフリーについて勉強しなくてはと思います。

※該当の児童・生徒がいないため、特に何もしていないという学校も多くありました。

前の設問とも関連しますが、バリアフリー図書を所蔵している学校が増え、特別支援学級の児童・生徒へのサポートが充実しているようです。

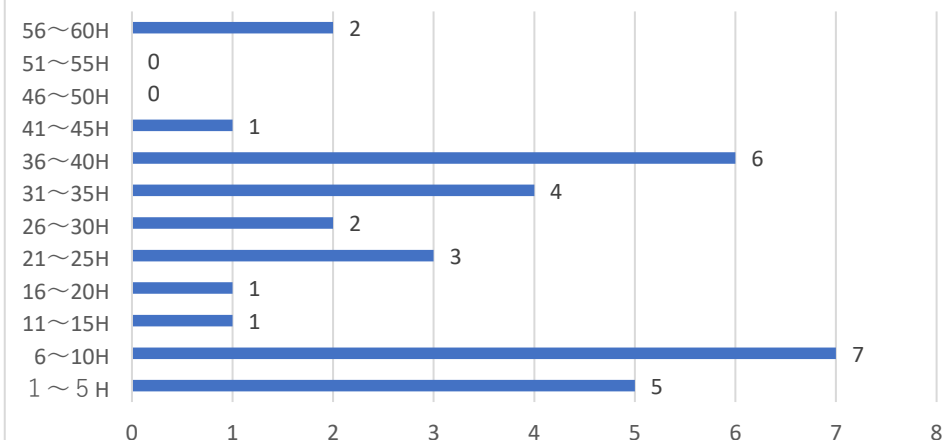
【本の読み聞かせ・一人で読書する時間について】

読み聞かせや一人で読書する時間について(複数回答可)

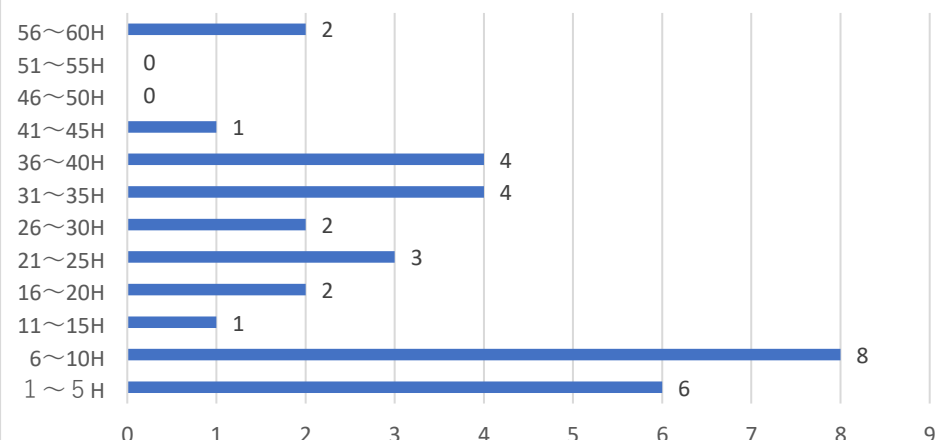


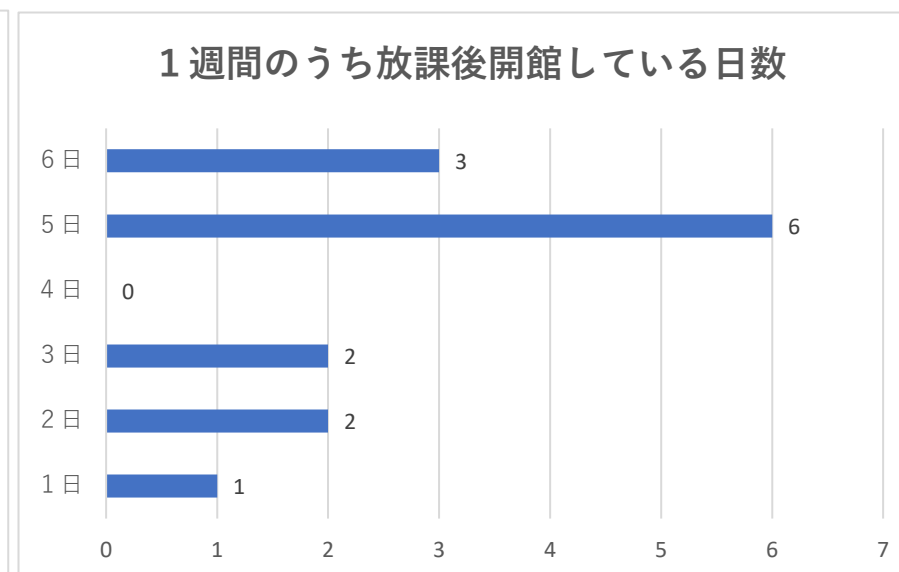
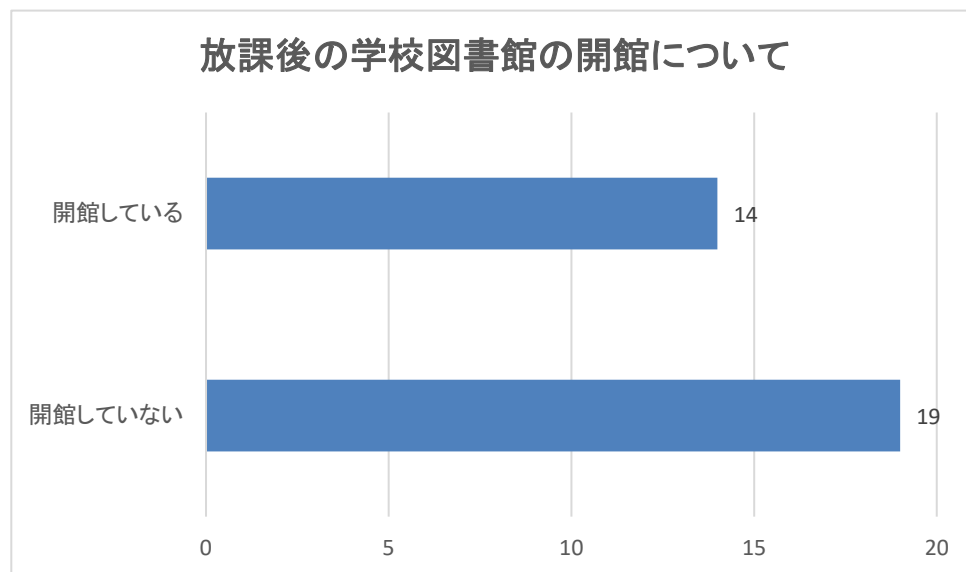
【学校図書館の開館状況について】

1週間の学校図書館の開館時間



1週間の学校図書館で貸出可能な時間





開館していると回答した14校のうち9校(64.2%)は週5日以上開館しています。

【学校】学校図書館を開館するために、工夫していることについて
・定期的にテーマを決めて、図書コーナーを作っている(表紙が見えるように設置)。・折り紙などで季節ごとに飾り付けをしている。
・パソコンの操作方法マニュアルを備えて、職員誰もが操作できるようにしている。
・ひとりで担当しているので、開館時間を確保するため、なるべく休まないようにしている。
・学校図書館専門委員が不在日にも、図書委員担当職員がPC管理、図書委員が貸出し返却、学校図書館利用をサポートしています。
・図書委員を司書不在の時も貸出しをする。児童がかりににきたら、かし出ししている。パソコンを朝立ち上げた後、放課後までスリープ状態にならないように設定している。先生方に探調ツールの使い方に慣れてもらう。
・教職員と一緒にあればいつでも利用可だが貸出は不可
・司書業務を外部に委託しています。また各クラス2名ずつの図書委員が昼休み、放課後の貸出、返却業務、イベント等の補助を行っています。
・司書二人体制で、どちらかに用事があったり体調不良であっても開館時間を維持できるようにしている
・支援級、まなび場の先生には、読書活動推進員が不在の時でも、鍵をあけて入館してもらい、連絡ノートを使い貸出ししてもらっている。
・図書委員さんにカウンター業務を担当してもらっています。(司書不在日の中休みと昼休み)
・長期休み前、年5回ほど放課後も開けています。図書委員が交代で毎日昼休みに開室してくれている。
・図書委員会を中心にルールの把握
・図書委員児童がPC立ち上げ、シャットダウンを担当することにより、司書不在でも貸出できるようにしている。
・専任の司書教諭が2名常駐しています。1名が席を外す際はもう1名が残るようにし、来館者のレファレンスにいつでも応じられるようにしています。
・専門委員がいないときは、先生や図書委員にお願いしている。
・学校図書館専門委員としての勤務は月に12日(約週3日)だが、プラス週1日、スクールサポートスタッフとして勤務している日も、中、昼休みの貸出しを行っている。
・特になしですが、勤務日は放課後時間に勤務にし、解放している。
・保護者ボランティアさんに放課後の開館をお願いしている。
・毎日の昼休みは図書委員が、月に6日は各日5時間は読書推進委員が開館

【学校】独自の取組について
《行事・イベント・展示について》 ・ビブリオバトルを昨年度から取り組みはじめ、今年度2回目を実施予定。 ・ビブリオバトル、図書館まつり(ビンゴ・先生おすすめ本)、本の木、ポップ、押し本紹介など、イベントを行う。参加者に「もう一冊かし出しクーポン」をプレゼント。 ・図書館主催のビブリオバトル、百人一首イベントなどを毎年行っています。また年度初めには、生徒だけでなく新任教職員向けの図書館オリエンテーションも実施しています。 ・朝読書を学期の中でクラスで割り当てて、順番に学校図書館内での朝読書実施し、たくさん本を手にとることができるようにしています。 ・毎年ではありませんが、図書委員がビブリオバトルを企画してくれる時があります。(先生たちがビブリオバトルを行い、生徒が投票) ・イベントをなるべく多く行うようにしている。今は「課題図書を何人読めるかなチャレンジ」を開催中。(読んだら表にシールを貼る) 昨年は117人が参加。(5～11月) ・バリアフリー図書の展示をしたいと考えている。文字・活字文化推進機構から貸りられるが、鎌倉市からセットで貸りられるととてもありがたいです。 ・授業、学年活動、部活動などと、いろいろ取り組んでいる。 ・図書の時間がなかなかとれない学年の教室の前に自由読書のできる本を選び置いている。イベントや学習内容に合わせて図書館前にかざっている。 ・独自の取り組み→図書委員でPOPを作って本の紹介をしている。年に一度、秋の読書週間に合わせてPOP大賞を決める催しを開催して、全校児童に良いと思う図書委員が作ったPOPに投票してもらっている。 ・テーマ展示やイベントを実施(図書室の好きな本を投票してもらう。R7年5月～R8年2月 好きな画集アートの本をシールで投票。秋 図書委員会主催のイベント 福袋など)
《図書館との連携について》 ・除籍図書について、気軽に検索して判断できるように、サイトなど作成してもらえたら助かります。本のタイトルを入れると各学校除籍している、または置いている、新しく出版されている、などの情報がわかればなお良い。 ・小規模校で蔵書数も多くはないため、学校搬送図書にはいつも助けられています。書名を指定して、希望した本を学校搬送で貸し出していただけるといいなと思います。 ・昨年度、今年度と低学年で1年を通してよみものパックを貸し出していただき学級文庫として大変助かっています。今後も続けていただけたら助かります。

《その他》 ・今年度から、教室に入れず別室登校をしている児童への、週1日の読み聞かせと図書の時間を設けました。 ・児童の自作のお話を製本、バーコードや分類ラベルをつけて貸出しをしている。 ・電子図書館を導入している。授業でとりいれてもらえるよう働きかけている。 ・さくら(支援級)で図書の時間があり、大型本や参加型で読書を楽しんでいます。 ・学校図書館に「りんごの棚」を」設置したく、本の選書、貸し出し等、ご相談できましたら助かります。 ・電子書籍(読書館) ・教員向けの館報(年5回)発行 ・教室前の廊下、教室内、職員室、ラーニングスペース、美術室など、あらゆる場所に蔵書を置く (貸出数の減少は常なる悩みで)
【学校】困っていることについて ・調べ学習用の大型本を入れる書架が足りない。 ・困っていること 探調の検索機能がうまく機能しない ・2025年4月より担当となりました。いつもありがとうございます。1・2・3年生は週一回の図書の時間があり定期的に貸出を行っていますが、4年生以上はなかなか図書の時間がないので読書の時間を確保するのが難しい状況です。高学年が読みたくなる本をどのようにPRしていったらよいか難しい状況です。ぜひご指導いただきたいです。 ・カーリルや図書館を導入して生徒が検索できるようにしたらよいと思うのですが、まだ進めていない。 ・クラスに3～4人いるといわれているディスレクシアの子どもたち(にどう対応していいかわからない)。デージー図書などを普通級で困っている生徒へ届ける難しさを感じています。 ・ほぼ利用されていないジャンルの本が更新されていなくて古い本しかない。 どこまで内容が新しい本に替えたほうがよいのか相談にのって頂けると助かります。 ・読み聞かせスペースのカーペットがあまりに古くて、衛生的でないので、どうやってリフォームするか検討中です。

よく借りる学習パック等の本については、学校図書館でも所蔵すると、いつでも子どもたちは手にとれるので、パック内容を参考に購入していただくのをおすすめします。除籍については、ケースバイケースなので、訪問サービスなどを利用してご相談ください。